平 成 ２ １ 年 度　　自 己 評 価 表

鳥取県立鳥取工業高等学校

年度当初			評価結果		
評価項目	具体目標	具体方策	目標達成状況	評価	次年度の改善方策
１．確かな学力育成	①わかりやすい授業をめざし、学習内容の精選、教材の工夫と共有化を図り、効果的な指導力の向上を図る。 ②授業評価アンケートを通して生徒の声を受けとめ、授業改善につなげる。	①授業等で生徒の理解度に注意を払いながら、個に応じた指導を工夫する。 ②公開授業を各科・各教科１名ずつ実施する。 ③校内外の試験などを通して生徒の学習実態を把握・分析し学習意欲の向上を図る。	○授業評価を参考に授業への工夫を図ったが、意欲の喚起に十分繋げられなかった。 ○各科・各教科の公開授業は、計画通り１回以上実施できた。 ○進学模試の受験希望者が少なく、意欲の喚起に十分繋げられていない。	C	○教科会で職員間の情報交換を行い、連携して学習指導にあたる。 ○授業公開を積極的に行い、よりよい授業を行う。 ○朝補習、土曜日補習の体制を検討する。
	①自己理解を深めさせ、生活目標・進路目標を確立させる。 ②自宅学習時間が理数工学科では２時間以上、工業科では１時間以上となること、30分未満の生徒の割合が３割未満となることを目標とする。 ③特別活動･委員会活動・部活動を通じ生徒の自主性・実践力を育成・伸長する。	①学習習慣の定着を図る。 ②授業・考査ごとに適宜生徒自身に自己点検・自己評価をさせる。 ③保護者との連携を深めるとともに、個別指導を徹底する。 ④委員会活動を各分掌・各学年で指導・支援し、生徒と職員が一体となって取り組むよう努める。	○自宅学習時間の目標は、１学期は概ね達成。２学期はインフルエンザの影響で下回った。 ○委員会活動は昨年より多くの分掌で活用できた。 ○部活動での全国大会の出場者数が減少した。	C	○生徒に適した課題を提供し、勉強に対する意欲を促す。 ○保護者、生徒との面談を通して、進路目標の早期確立を図る。 ○全国レベルを意識した部活動に取り組む。
２．豊かな人間性の育成	①日常的に生徒と関わる時間の確保に努め、個々の生徒の良さを認めながら意欲喚起を図る。 ②教職員が研修等を通して自己を振り返り、学ぶ姿勢を持ち続けるとともに「全教科・全領域での人権教育」を実践する。	①「Ｑ－Ｕ調査」を全生徒を対象に年２回実施し、支援を要する生徒の把握に努め、分析結果から望ましい集団づくりを推進する。 ②差別解消に向けて教職員の一人一研修参加１００％をめざす。 ③朝の交通安全指導をとおして、生徒と教職員との間に明るい人間関係をつくり、コミュニケーション能力を育てるよう、あいさつ指導を推進する。 ④学校と家庭との連携を密にして課題の早期発見と迅速な対応に努める。	○「Ｑ－Ｕ調査」で生徒理解は深まったが、個々の生徒指導に生かすことができなかった。いじめ等に関するアンケートは、問題点の早期発見の一助となった。 ○関係教職員で連携し、相談活動の適切な対応に努めた。 ○職員研修により、人権教育で大事にしたいことを再確認した。 ○人権教育公開ＬＨＲの事前研修により、その充実を図った。 ○一人一研修の取り組み達成状況は、６０％だった。	C	○「ハイパーＱ－Ｕ調査」に変更する。（第１学年） ○引き続き、家庭と連携して問題行動の早期発見・早期対応を図る。 ○校外の人権教育講演会の情報提供を継続して行う。 ○公開学習の内容を吟味検討するとともに、ＰＴＡとの連携を図る。
	①読書活動をとおして豊かな心をはぐくむため、年間の生徒一人当たりの貸出冊数が前年度比３％増をめざす。 ②各種ボランティア活動の年間参加率が昨年度以上となるよう努める。 ③性教育に関する指導時間を年間２時間以上確保する。 ④ＴＥＡＳ（鳥取県版環境管理システムⅡ種）の環境改善目標の達成をめざす。	①図書室を利用した授業実践や企画展示、図書館便り等の広報活動に努め、図書室の利用を促進する。 ②各種ボランティア活動への積極的参加を推奨する。 ③性教育に関する講演会やＬＨＲをとおして、性への正しい認識を深めさせる。 ④管理美化委員の積極的活用を図るとともに、環境宣言の周知徹底を図り全生徒の取り組みとなるよう努める。 ⑤健康づくりのために食の環境整備を行う。	○ボランティアの参加者数が減少した。 ○性に関する教育の年間計画を見直し、性に対する理解が深まった。 ○地域からの声として、「鳥工生からよく挨拶をしてもらい、元気をもらった」との声があった。 ○ＴＥＡＳの今年度の数値目標は全て達成した。	B	○教科指導及び特別活動の教育活動全般をとおして、生徒一人ひとりの人間性を育成する。 ○性に関する教育の各学年でのテーマを設定し、講演会１回、ＬＨＲ１回を実施する。 ○引き続き、通学路上でのマナー向上を推進する。
３．キャリア教育の充実と生徒の進路実現	①各種資格・検定への受験を奨励する。 ②ものづくりの楽しさを実感させ、専門教科への興味・関心を育む。	①資格検定の年間スケジュールを提示し、資格取得や検定合格のための放課後補習や勉強会の指導体制を整え実施する。 ②検定やものづくりコンテスト等の実技指導を充実させ、各種競技会へ挑戦する意欲を醸成し、学んだ知識や技術を発展的な取り組みに繋げる。 ③各科毎の課題研究発表会を通して、引き続き探究心や表現力を養成していく。	○資格検定の受験の奨励や特別補習の継続的な指導に努めているが、生徒の意欲差があり十分な成果は残せなかった。 ○各種資格取得補習の実技指導を社会人講師と連携をとりながら充実させた。また、各種競技会への挑戦、学んだ知識や技術を発展的な取り組みに繋げている。 ○課題研究発表会の実施により探究心や表現力を養成できた。	B	○積極的な資格取得指導がなされており指導を継続していく。 ○ものづくりコンテストなど各種競技会への取組を、社会人講師と連携により充実させる。 ○課題研究発表会を通して、引き続き探究心や表現力を養成する。 ○今後、工業技術基礎を各科共通での実施に向け、計画を立てる。 ○各科の資格取得計画を作成し、指導の徹底を図る。
	①計画的な進路指導を行ない、自己の適性を理解した進路選択ができる力を育む。 ②基本的な生活習慣やマナーを育成するとともに、社会の一員としての自覚と社会性を身に付けさせる。	①企業見学会、インターンシップ、進路ＬＨＲ、進路説明会、諸検査等により生徒の進路意識の高揚を図り、自発的に進路決定できる力を養う。 ②補習等を充実させ学力向上をはかるとともに、希望者に対して進学模試、作文模試、公務員模試等を実施し個々の進路に応じた適切な指導を行なう。 ③全職員が継続して生活指導を行う。また、遅刻・早退・欠席防止のため保護者への連絡を密にするとともに、全職員による朝の登校指導を引き続き実施する。	○企業見学会、インターンシップ（工業学科全科で５日間実施）、進路ＬＨＲ、進路説明会、諸検査等を計画どおり実施し、成果があった。 ○進学補習を実施して学力の定着を図った。一方、工業学科の進学模試受験希望生徒が少なく、意欲の喚起に十分繋げられなかった。 ○服装指導や挨拶指導と併行した朝の登校指導は、計画どおり継続実施している。遅刻、欠席については昨年同様に保護者への連絡を密にしている。	B	○企業見学会、インターンシップ、進路ＬＨＲ、進路説明会等で、生徒の進路意識の高揚を図り、自発的に進路決定できる力を養う。 ○進学補習への自主的な参加を図るとともに、進学模試の受験を促進し、進路決定できる力を養っていく。 ○基本的生活習慣確立のため、一貫した指導方針のもとで全職員が一致して継続した指導に当たる。 ○各科職員が就職先、進学先に出向き進路開拓する。 ○５Ｓ・あさひの指導推進体制をつくる。 （あさひ：あいさつ・作法・人の話を聞く） ○全体集会による指導の徹底を行う。 ○外部講師による教職員研修会を開く。
４．地域や産業界とのパートナーシップの確立	①「地域産業の担い手育成プロジェクト」が最終年を迎え、実りある結果が出るよう取り組む。	①「地域産業の担い手育成プロジェクト」の各メニューを推進するとともに、鳥工版デュアルシステムを新規実施する。	○「地域産業担い手育成プロジェクト事業」で各事業に取り組み、関係企業との連携を深めながら、職業観・勤労観の育成に大きな成果をあげることができた。 ○鳥工版デュアルシステムにおいても、専門的な技術・技能の習得を図ることができた。	B	○「地域産業担い手育成プロジェクト事業」のメニューを精選し、実施する。 ○鳥工産業懇話会（仮称）を開催し、地域産業との連携を図る。 ○インターンシップ、企業見学会を推進して、情報交換や意見交換の場を設定し、反省会等を実施する。
	①地域住民・中学生に対して、鳥工をＰＲしていく。 ②学校ＨＰの更新により最新の情報を発信するよう努める。 ③学年別懇談会、学科別懇談会等の1年間のＰＴＡ行事の参加率が昨年度以上となるよう努める。	①各科で研究、製作したものを文化祭の「鳥工ＴＥＣ」で展示し、地域住民に紹介する。 ②課題研究発表会を学校外で実施し、広く県民に公開する。 ③近隣中学生を対象とした「ものづくり教室」や小学生を対象とした「科学遊び広場」を実施し、ものづくりの魅力を発信する。 ④学校ＨＰ等で学校の取り組みを積極的に広報する。 ⑤学年別懇談会、学科別懇談会等の内容を工夫する。	○科別ＰＴＡ、鳥工ＴＥＣ、中学生体験入学、テクノボランティア、課題研究発表会等を実施し、教育内容の発信を行った。 ○１学期末、近隣の３小学校上級生を対象に部分日食の観測、科学実験、ロボット演示、エコノカー演示などを行い、２６０名の参加があった。 ○小学校への出前授業を３回実施した。	C	○鳥工ＴＥＣ、中学校体験入学の実施方法、内容を検討する。 ○中学校等への情報発信を推進する。 ○課題研究発表会を公開し、学習成果の広報を図る。

評価基準　A：十分達成　B：概ね達成　C：変化の兆し　D：まだ不十分　E：目標・方策の見直し
〔100%〕　〔80%程度〕　〔60%程度〕　〔40%程度〕　〔30%以下〕